

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

須 田 瑞 穂

○長野県松本市

「街なみ環境整備事業」及び「歩いてみたい城下町整備事業」について

【所 見】

松本市はかつて養蚕が盛んな街であり、製糸工場や地元鉄道会社の倉庫が立ち並ぶ倉庫街であった。商業地域は駅よりも松本城の近くに立地しており、松本市の顔となっている伊勢町通りはアーケードの商店街であった。しかし、1970年頃から、時代とともに車社会となり、郊外の大型店舗に顧客が集中する中で、伊勢町通りの商店街は衰退していった。

そこで、松本市では1981年より地元との協議を開始し、1985年には都市計画決定、2003年には中央西区画整備事業が完了した。伊勢町通りでは「ふるさとの顔づくり事業」を導入し、歩道を確保し、流れや植栽をすることにより魅力ある歩行空間を演出し、歩行者空間の充実を図り魅力的な地域となった。年代に応じた地域づくりをすることにより街の価値が上がり、地域活性化につながった経緯を拝見し非常に勉強になった。

松本市では、街なみ環境整備事業として「中町まちづくり事業」、「お城下町まちづくり事業」、「お城東地区まちづくり事業」、「中央東地区まちづくり事業」等を行っており、中町では明治より蔵造りの商店が建てられてきた。明治時代に大火があった際に土蔵のみ焼け残ったことから、その耐火性に着目したとのことである。歴史を感じる街並みを整備しようと中町では蔵のあるまちづくりが行われ、お城下町地区では、古い映画館や大正の時代を思わせる建築物があることから、大正浪漫をテーマにしたまちづくりが行われている。街路にはガス灯に似た街路灯を配置してある。また、旧松本市役所跡に旧松本市役所のデザインを取り入れた市営住宅もある。この他にも、お城東地区や中央東地区では、街路や井戸の整備が行われている。また、整備された井戸は、人々の憩いの場となるだけでなく、災害時には用水として利用することも考えられ、さまざまな要素が整っていることを視察し非常に参考となった。

何よりも、まちづくり事業に関して、行政だけでなくその地域の町内会や、若者などのすべての市民が街をよくしようという一体感があったからこそ成功しているのだと強く感じた。

○長野県安曇野市

「安曇野市観光振興ビジョン」について

【所 見】

長野県安曇野市は、NPOふるさと回帰支援センターアンケートによる暮らし希望ランキングにおいて1位を獲得したことある地域であり、(2013年8月当時。)地域ブランド調査2011年において居留意欲度が全国で59位(全国1,000カ所の市町村)となっている。今人口減少がどの市町村でも大きな問題となっているが、社会的ニーズを考慮すると、安曇野市における移住者の累計は今後も増加していくものと考えられる。ランキング等が全てではないが、しっかり地に足をつけたビジョンを勉強することができ非常に勉強になった。

また、大王わさび農場の現地視察では、広大な敷地に栽培するわさびや、黒沢明監督の映画「夢」のロケで使われた水車小屋など、さまざまなスポットを視察し非常に勉強になった。

生ワサビの販売や、わさびソフトクリーム・わさび漬け・わさび風味の野沢菜の他、わさびビール・わさびジュースまで味わえる等、多種多様なわさび商品の多さに驚いたとともに、地元の方々が元気に販売等を行い働いている姿をみて、地域活性化の根幹は、全ては人からだという部分も実感した。また、平日にも関わらず外国人観光客の姿も多くあり、振興ビジョンでも力を入れている外国人観光客の誘致及び受け入れ対応の部分も非常に勉強となった。